

第22章 人びとが「通過していく街」で

福島県・ふくしまコミュニティスペースよりみち

さとうさん



実施日：2019年5月21日 聞き手：前川直哉・杉浦郁子

実施場所：ふくしまコミュニティスペースよりみち（福島市）

【プロフィール】

1991年生まれ、福島県いわき市出身（インタビュー時28歳）。2011年より福島市在住。大学在学中に若年層のセクシュアルマイノリティが集まれるイベント「のんき」を福島市内で開催。2016年より福島市で毎週、セクシュアルマイノリティ・若年女性などの交流会を開催する居場所「ふくしまコミュニティスペースよりみち」を開設し、管理人をつとめる。

1. 大学生のころ（2011年～）

◆親しい人には伝えていた

福島県いわき市で高校までを過ごし、2011年に大学進学を機に福島市へ来ました。大学に入学した頃から、女性が好きだということは、親しくなった何人かには言っていました。ただ自分の性自認に関しては、そもそも気付いたのが大学2年の頃だったので、自認に関してはあまり言ってなかったです。大学入学前は、あんまり言ってなかったですね。3人ぐらいかな。

大学ではストリートダンスのサークルに入っていました。男性も女性もいるサークルです。そのサークルで「新入生の後輩をちょっと騙そう」みたいなことを毎年やってるんですけど、私たちが1年生の時に「来年になったらどうする？」っていう話になって。私がこういう外見なので、周りから「実は彼女がいて、みたいな設定にして騙したら面白いんじゃない？」って言われたんですよね。で、その時には言わなかったんですけど、多分、もやっとしてたんだと思います。「そういえば彼女いたしな」「それ別に、嘘じゃないし」って。

それで今度、また似たような話題になった時に「実は以前、彼女いたんだよね」みたいな感じで言いました。周りは「本当だったんだ」といった反応で、割とすんなりでしたね。

その時はまだそれほど知られてなかったと思うんですけど、その後、同じサークル内に彼女ができたので、サークルのみんなにばれました（笑）。公認の仲というか、「あの2人、付き合ってるんだ」ってなりました。

周りにカムアウトして嫌な思いをしたことは、あまりないです。それよりは、言わないで

異性愛のシスジェンダーとして扱われるほうが嫌だというのもあります。

自分のことを話していたので、「知り合いにもいるよ」って言って紹介してくれたりとか、あと「2丁目行ったことあるから連れてくよ」って言って連れていってくれたりとか、そういうことが起きてたりはしました。比較的、情報は集まりやすかったのかもかもしれませんね。

◆ブログで発信する（2015年～）

大学在学中、2015年ごろにブログを始めました。色んなテーマを取り上げていて、セクシュアルマイノリティに特化していたわけではないのですが、「全然、情報がない」「じゃあ自分で発信しようかな」と、セクシュアルマイノリティについての発信もしていました。ブログでは自分が X ジェンダーだということも書いていたので、結婚式に呼ばれたときにどんな服装で行くか、といったこともアップしたり。「ブログのネタにもなるしな」と思って、仙台のピアンバーに行ったこともあります。

自分の身近なことについて発信していたという感じなので、あまり「福島からの発信」とか、地域性については意識してなかったと思います。

◆「女子の暮らしの研究所」とラジオ（2015年～）

同じ 2015 年に、「女子の暮らしの研究所」という団体にも所属していました。震災・原発事故をきっかけにできた団体で、福島の人とか、いいものについて発信したりする団体……だと思います。私は主にラジオ担当だったので、あまり詳しくなくて（笑）。きちっとした組織名簿があるわけでもなく、関わりたいっていう人が好きな関わり方をする、というわりと不思議な団体で、ピアスとか作ったりもしましたね。

「女子の暮らしの研究所」は郡山市のコミュニティラジオのコーナーを持っていて、私もパーソナリティーの一人だったんです。そのラジオでは毎回テーマを変えていて、LGBT をテーマにしたこともあります。

その時に、ちょうどできたばかりの「ダイバーシティふくしま」の存在を知り、ラジオのゲストとして前川さんをお呼びしたのが、前川さんと知り合ったきっかけです。

そのラジオはもともと友達関わっていて、「ラジオもやってるんだ」と聞いたので「ちょっとやらせて」って言って、出させてもらったのが「女子の暮らしの研究所」に所属したきっかけです。テレビはあまり見ないのですが、ラジオをわりと聞くので、関心があったんですね。実家でもラジオばかり流れていましたし。

収録の頻度は、まちまちでしたね。本当に毎週のように収録していた時期もありました。結局 1 年近く、「女子の暮らしの研究所」には関わらせていただきました。

ラジオではセクシュアルマイノリティ当事者と明言していたわけではなく、「ちょっと詳しい人」というスタンスで出ていましたし、その時点でもう周りの人にはみんなカミングアウトしていたので、特に個人が特定されても困らないというのがありました。その点についての怖さとか恐怖感はなかったです。

◆家族へのカミングアウト

家族構成は父、母と、兄が一人、弟が一人で、私が真ん中です。女性が好きだということは、家族も知っています。ただ、私の性自認については知らないです。

家族に伝えたのは就活が始まる時期、2013年の夏くらいからです。最初は確か、兄にカミングアウトしたんだと思います。「就活どうしようかな」という時に兄にカミングアウトして、その時は就活の服装について悩んでたので、そのこともちらっと喋ったんですよ。そしたら兄に「俺は、女性の格好で就活しろって言われたらするよ」って言われたのを覚えています。服装の件について「我慢できることだ」と兄は思っているんだな、というのは分かりました。なので、あんまり理解がないというか……。

弟や両親にいつ言ったのか、どんな反応だったかは、はっきりとは覚えてないんですよ。話の流れで、何かちょっと糸口があって、「ここが言えそうなタイミングだな」という時に伝えてみる、という感じのカミングアウトだったので。

弟は「ふーん」という反応だったと思います。母親は多分、驚いてはいたんだと思います。みんな、すごく否定的、というわけではないんです。肯定的ではないけど、すごく否定的というわけでもない。

父は「同性が好きなのは理解していて、そういう人たちが一定数いるのも理解している」「だが、人間として子どもを産み育てるのが当たり前。生物的に普通だから、将来的に結婚をするんでしょう？」と言われました。そう父に言われたときは、また時間をかけてちょっとずつ、その辺を崩していくしかないなと思ったので、その時はあいまいな形で流した気がします。

母にはカミングアウトするより前に、「女子の暮らしの研究所」のラジオに関わっているという話をしました。そしたら番組を聴いていたみたいで、実家に帰った時に「そういえばこの間、ラジオでLGBTのことを取り上げてたね」みたいな話から始まり、セクシュアルマイノリティに関して色々喋った気はします。その時は、まだ母にはカミングアウトしてなかったんですけど、その後に母には「彼女がいる」と伝えました。そしたら「私も知ってる人なの？」って聞かれて、実際に母も知ってる人だったので、「〇〇さんです」って言って喋ったんです。その後、多分、母も内心では色々考えていたんでしょうね。時々、間をあげながら、たまに質問してきたりします。

◆発信するのは好き

ブログとかラジオとか、「発信する」のは好きですね。私はあまり難しいことを考えるのが苦手みたいなので、「やる」と決めたらやっちゃって、それで問題が出ることもあるんですけど。でもこれまで発信してきて、特に問題は出なかったですね。

「誰かのために発信する」みたいな意識はあまりなくて、自分が困ったから発信する、というスタンスです。例えば幼馴染みの結婚式に呼ばれたとき、何を着ていこうか悩んで、ネットで「Xジェンダーの服装」を調べたけど出てこなかったんです。出てこないから、じゃあ自分で書こうかなと思って書きました。

その時は、自分が結婚式に実際に着ていった服装をブログにアップしました。他の人の参

考になればっていう気持ちもあったかもしれないですが、どちらかと言えば自分の記録用で。割ともやもや、イライラする機会があるので、せっかくイライラしてるのに発信しないともったいないみたいなのところがあって、発信していました。書いたりまとめたりすると、ちょっともやもや、イライラが収まる。自分の心を落ち着けるために、というのも結構ありましたね。

ブログは結構、色んな人が見てくれていたみたいです。見てくれた人からのコメントやリアクションもありました。その時につながった人が、その後「ふくしまコミュニティスペースよりみち」に参加者さんとして来てくださったこともありました。

最近、あまり発信はしていませんね。セクシュアリティに関して人前で話す機会も増えてきて、直接伝えられる場面があるので、ブログで発信したりはしていません。SNSもあまりしていません。

◆イベント「のんき」運営（2016年～）

若年層のセクシュアルマイノリティが集まれるイベントがあればいいなと思っていたのですが、福島市に全くなかったので、大学の先輩と2人で2016年に「のんき」というイベントを開催しました。始めたのは大学を卒業する直前で、大学のすぐ近くの「コンテナカフェ」っていう誰でも使える場所を使って、ご飯を食べながらいろいろ交流するというイベントをやったりしました。

もともと何か集まれる場所やイベントがあればと思いつつも、1人でやるのは難しいかなと諦めかけてた時に、行動力のある先輩と知り合って。じゃあやろうかって、すぐに決まってやり始めました。その先輩は、共通の知り合いから紹介されました。当時はまだ、通っていた大学にLGBTサークルはなかったですし、「のんき」も大学の近くでやってただけで、大学のサークルではありません。

イベントの告知はTwitterを使いました。その先輩がTwitterのフォロワーがたくさんいる人だったので、その告知を見て結構、参加者さんが来てくれましたね。10人行くか、行かないかくらいだったと思います。この種のイベントは初めて参加します、という人も2人ぐらいいました。参加資格は、セクシュアルマイノリティの当事者と理解者限定でやっていたと思います。10代、20代限定だったかもしれません。

事前の予想ではみんな近所から来るかなと思っていたんですけど、大学の近くでやった時は、仙台から1人、山形から1人、あと三春からも1人来てくれました。仙台の人は「色んな人と関わりたい、東北のイベントだったら全部出る」という方だったんですが、山形の人は「のんき」が初めてのイベントだと仰ってました。

1回目と2回目はわりと間をあけずにやったんですけど、もう1人の主催者が東京に引っ越してしまい、私も「よりみち」の運営が始まってしまって。2回目の後に1年くらい間があいてしまいました。「よりみち」ができた後、3回目の「のんき」を「よりみち」でやって、それが最後になっています。

2. 「ふくしまコミュニティスペースよりみち」

◆「よりみち」開設（2016年6月～）

2016年6月に「ふくしまコミュニティスペースよりみち」という居場所を開設しました。社会的包摂サポートセンターが運営する居場所で、その職員として「よりみち」開設前の準備段階から運営しています。

ちょうど同じ2016年から、同センターが「居場所」事業を岩手・宮城・福島の被災地3県で始めることになったんです。そこで私は2016年4月、大学を卒業してすぐに社会的包摂サポートセンターへ入社することになりました。入社が決まったのは2月か3月でした。物件探しや引越などの準備をして、6月に「ふくしまコミュニティスペースよりみち」を開設しました。「よりみち」では、管理人という立場です。

◆就活のこと

大学生の時、一応ちょっとだけ就活はしていたんですけど、「でもそんなに無理するのみな」と思っていて。「やっぱり女性用のスーツ着るの嫌だしな」と思っていたものの、大学の就職支援室に相談には行けませんでした。ある意味、自認が男性か女性かのどちらかだったらもう少し分かりやすいのかもしれないのですが、そうではない、けれど戸籍の性別とは違うほうの性別の服を着たい、というのは分かってもらえないのではと考えて、就職支援室には行かなかったんですね。

それで、まあ就活はいいかなと思って、フリーターになろうと考えていたんです。そんなタイミングで社会的包摂サポートセンターの話が出てきて。「どうしようかな」と思って、当時付き合っている人に相談したら「せっかくだし、いいんじゃない？」と言われて。だからすごい、軽いといえば軽い理由で入社しました。「すごくやりたい！」といった思いがあったわけではないです。でももう3年以上続いていますね。

相談とか支援とかっていう仕事に、特に興味があったわけではありません。逆に不安や心配もあまりありませんでした。心が削れていく仕事ではあるので、たまに「削れてるな、危ないな」と自分で感じる時期はありますが、でも対処できています。

それよりは、服装と髪型が自由というのが、私には一番いいんですね。都会ではない福島では、正社員で服装と髪型が自由で、って考えていくと、ほとんど仕事がないんです。そんなに選択肢がないので選べない、というほうが大きいかもしれないです。この仕事が気に入っているとかわけじゃなくて、消去法という感じです。

1年くらい前に一度、試しに福島のハローワークへ行ってみたことがあるんです。初回だったので「留意してほしいことはありますか」というアンケートに「セクシュアルマイノリティに理解のある人を担当にしてほしい」と書いたんですけど、求職票の性別欄を書かずに窓口を持っていったら「性別欄、空欄ですよ」って言われてしまって。意味分からんな、って思いました。

その時は「戸籍の性別でいいんですか」って言ったら、向こうも別に深入りするでもなく。不思議そうな顔もしなかつたので、多分、本当に何も分からなかつたんだろうと思います。

アンケートに書いたのにこの対応ということは、このハローワークにセクシュアルマイノリティに理解のある人はいないのだろうなと思って、行くことをやめました。

「よりみち」の参加者さんから、就職に関する悩みを聞くことがあります。そういう時の参考になればとも考えて、「今の就活やハローワークってどんな感じなのかな」と行ってみたらそういう対応だったので。結局、「よりみち」で就職に関する話が出て、「つらいね」としか言えないです。

◆福島市という場所

東京にはあまり出たいとは思いませんね。若い人は比較的、東京に憧れる人も多いですけど、「何でもあるから」「交通が便利だから」って理由を聞いても、あまり。私も出張でちょこちょこ東京に行くんですが、確かに交通は便利ですけど、人が多すぎて疲れるし……。一度、1か月半くらい東京に住んでたこともあったのですが、ご飯がおいしくなくて4キロ痩せてしまって、これは駄目だと思いました。

地元のいわき市に戻って仕事を、というのも考えてないですね。地元、不便な気がするのです。今いる福島市のほうが自分にとって便利だと思います。福島市みたいに、ちょっと行くところと山があるくらいに住むところとしてはいいかなと思っています。

ただ「よりみち」の活動という点で考えると、福島市くらいの規模の街だと、「よりみち」は近すぎて、行きたいけれども行けない」「知り合いに会うんじゃないかと思うと行けない」という人も、まだ結構多いです。開設当初から「よりみち」を知っていて、ずっと「よりみち」の Twitter も見てくれていたけど、開設から3年経った今年になってようやく「行こう」という気になって来てくれた、という参加者さんも結構います。

福島に住んでいるゲイ男性の方で、仙台の「ZEL」に置いてある「よりみち」のフライヤーを見て前から存在は知ってたんだけど、近すぎてずっと来れなくて、最近ようやく来てくれた、なんて人もいます。

福島市だけではなく、似たような居場所が福島県内のいろんな地域にあれば、みんなもう少し行きやすいかもしれませんね。地元ではちょっと行きづらいけど、その隣なら行けるとか。

◆「よりみち」の交流会

福島市の「よりみち」では、毎週日曜日の午後に交流会を開いています。「誰でもOKの日」「十代・二十代限定の日」「セクシュアルマイノリティ・フレンドリーな人限定の日」「女性限定の日」など、日によって対象が分かれています。

「よりみち」はセクマイがメインではありますが、セクマイだけの居場所というわけではありません。女性限定の日や、セクシュアリティの限定のない日もあります。開設1年目は、参加者の9割ぐらいがセクシュアルマイノリティ当事者でした。今はそれ以外の参加者さんが増えてきて、セクマイ当事者の割合は少し減ってきています。

「よりみち」を開設して三年くらい経つので、「初めての人は来にくいかな？」と思って、「よりみち初心者の日」というのもやっています。その日は年齢・性別不問で、「よりみち」

初めての人か、二回目の参加の人だけが参加できる、という感じで。

日によって対象が違うのは、例えば色んな年代の人と話したい人もいれば、年代が近い人とのほうが話しやすいって人もいますし。「セクシュアルマイノリティ・フレンドリーな人限定」としたほうが参加しやすい当事者もいれば、逆にそう書かれると行きづらいという人もいるので、色々と設けています。

毎回の参加者数はバラバラですね。0の時もあれば、10人を超える時もあります。地元の福島市近辺だけではなく、会津や白河、山形とかから来てくれる人もいますね。

ゲイ男性の参加者さんも来ますが、ゲイアプリをあんまり使えないとか、苦手という人が多い印象です。「よりみち」の参加者さんの中では、ゲイ男性はやや少ないという印象ですね。ゲイ男性はアプリで知り合っちゃうからなのかな。あと、これはゲイ男性に限らないですけど、セクシュアルマイノリティ当事者であっても、他のセクシュアリティの人には興味がないって人も結構いるので。恋人とかセックスの相手は求めても、あまり「友達を作ろう」という発想がない人は、ゲイにもレズビアンにも一定数いる気がします。そういう人は「よりみち」には来ずに、バーとかに行ったり。

「よりみち」に来る人の目的は、友達づくりだったり、あとは「自分らしく過ごせる場所」の一つとして来てくれるんだと思います。日頃の鬱憤というか、モヤモヤすることを話したりとか。トークテーマを設けることもあって、「性差別について語る会」の時とか面白かったですね。すごい固い会なのかなって思うじゃないですか。でもやってみたら結構、話が出てきて。最初は女性の生きづらさみたいなどころから始まり、日常の「これムカつくよね」とか「どういう社会の枠組が背景にあるんだろう」「ここがこうなったらいいよね」みたいな話をしていて、なぜか最後はゴリラの話になっていました（笑）。

普段の活動の中で、福島という地域性を意識することはあまりないです。ただ他の都会でやっている活動の雰囲気は自分たちには分からないので、特に意識していないけど地域性が出てるとするのは、もしかするとあるかもしれないです。

◆「仙台よりみち」

「よりみち」は月一回、仙台でも交流会を開いています。今年度の「仙台よりみち」は毎月、第一土曜日です。仙台でやると、結構参加者さんが来てくれます。高校生とか、十代の子とかも、ちらほら来てくれる。

仙台はセクシュアルマイノリティの居場所がたくさんあるように見えるんですけど、実は意外と十代・二十代など若い人が集まれるような場所がないんですよ。バーとか、お酒を飲むような場所は結構あるのですが、若い人向けは少ない。一つだけ「HOMEY」というイベントがありますが、そこが今年2月くらいから不定期開催になってしまったので、「仙台にも若者が集まれる場所が必要かな」と考えて「仙台よりみち」を月一回、開いています。

「仙台よりみち」の参加者さんには、仙台の人もありますし、福島からわざわざ来る人もいます。福島市の「よりみち」と両方に参加する人も結構いますね。

◆「出張よりみち」

さっきは「近過ぎて行けないという人が多い」という話をしましたが、逆に同じ福島県内でも「福島市は遠くて行けない」というのもあるので、そういう方のために福島市以外での「出張よりみち」という交流会を開催しています。去年は三回やって、いわき市・会津若松市・白河市に行きました。会津はちょっと対象の設定を失敗してしまって参加者が一人だったのですが、いわきは五人ぐらい、白河の時も七人ぐらい来てくれました。白河は協力してくれているコミュニティカフェがあるので、そこで。会津といわきは、公共の施設を借りて開催しました。日曜日は福島市の「よりみち」の日なので、「出張よりみち」は土曜日や祝日に、「よりみち」スタッフが出張して開催しています。

いわき市は私の地元ですが、福島市でも「よりみち」を開いてる日だったので私は出張に行けなくて。その日は仙台でも開催していたので、同じ時間帯に全部やって、ビデオ通話で繋いだりしました。いわきの方なんかはなかなか福島市の「よりみち」には来れないので、「こんな雰囲気です」や「こんなスタッフがいますよ」というのを見せて。他の参加者さんの様子とかも分かったみたいで、それはすごい面白かったです。

今回は行けませんでした。行けるタイミングだったら、自分がいわきの「出張よりみち」に行くのは特に抵抗ないですね。地元ですけど、親さえ来なければ大丈夫です。

◆行政、他団体との協働

行政との協働は、あまりないです。関わり方がよく分からなくて。「ダイバーシティこおりやま」さんが行政と協働でやったイベントで、私が少し喋らせてもらったということがあります。

県の教育委員会から学校リストをもらって、県内の学校に「よりみち」のフライヤーを配ったことはあります。2017年に中学と高校、2018-19年に高校だったかと思います。福島県内全ての公立高校と、福島市内全ての公立中学だったかな？ 少し記憶が曖昧ですが。前川さんのついでで教育委員会にあらかじめ「こういうフライヤーを送りたいんです」と言いに行ったら、向こうは特別乗り気というわけでもないですけど「ああ、いいですよ」と。だから事前に教育委員会から各学校に連絡してもらったうえで、フライヤーを生徒数分、送りました。各校に何枚かずつというのではなく、教育委員会から各校の住所と在籍生徒数のリストをもらって、それぞれの学校に生徒数分のフライヤーを送ったんです。学校のリストも、教育委員会からすんなりもらえましたね。

そこで配布したフライヤーを見てすぐに来た人はいなかったんですが、学校でフライヤーが配られて「こんなのあるんだ」と思って、その半年後ぐらいに改めて自分で調べて「よりみち」に来てくれた人もいました。学校の先生に聞いて「よりみち」に来たという人もいます。学校経由で参加してくれた人の中には、いま「よりみち」のスタッフをやっている人もいます。

発送部数が多かったので、あの時は「よりみち」の部屋が段ボール山積み状態になって大変でしたね。そういうことができるのも、自分たちのスペースがあるというメリットではあるんですが……。ただ全校に生徒数分送るという労力をかけた割には、そのフライヤ

一を見て直接「よりみち」に来た人はあんまりいなかったかな、という感想も正直あります。

他団体との協働としては、先ほど話に出た宮城で若者向けのイベントをしている「HOMEY」と、合同交流会をさせてもらいました。一昨年の夏と昨年の夏、ふだん「仙台よりみち」をやってる場所でカレーを食べた後に、みんなで花火をしに行くという。

合同でやろうと思ったきっかけは、「お互い宣伝になるかな」というのもありますし、「せっかく似たような対象だったら一緒にやるのも良いんじゃないかな」というのもあります。あと、普段 HOMEY さんは場所を借りて交流会を開催しているので、HOMEY さんにとっても「場所がある」というのはありがたかったみたいです。

◆震災の影響

「社会的包摂サポートセンター」自体が2011年の震災をきっかけに作られた団体ですが、普段の「よりみち」の活動の中で、震災の影響を感じることは、あまりないです。ずっと福島市にいた人とかだったら何かあるのかもしれないですけど、私は震災前と震災後で住んでいる場所が違うんで……。参加者さんの中でも、普段から震災のことを意識している人は、あまりいないと思います。普段「よりみち」で震災の話題が出ることも、ほぼないです。

同じ福島県でも、沿岸部ではなくて福島市にいと、震災の影響を感じることは少ないかもしれないです。ただ私自身はいわきで被災したんですけど、その時も特にセクマイだからということで困ったことはなかったですね。

以前いたスタッフの中には、震災後に生活がガラッと変わって、それ以降やっ自分らしく生きられるようになったというセクシュアルマイノリティ当事者もいます。だんだん落ち着いてきたから、他の人のためにも何かしたい、ということでスタッフをしてもらっていました。

県外の人と喋っていて震災の話を振られることはあるんですけど、住んでる人たちの中とか、「よりみち」に来る人の中とかでは、震災の話題って出ないですね。「被災地」や「被災3県（岩手・宮城・福島）」という視線自体、県外の人から見てという部分はあると思いますし、その視線をもとに枠ができたり予算がついたりというのはあると思うのですが。ただ逆に県外の人たちから見て「もう必要ない」と思われたら、その予算はなくなってしまうので……。

◆福島市は「通過していく街」

自分が住んでいて、福島市は「通過していく街」というところがあると感じています。生まれてからずっと福島市に住んでいる人も出ていってしまうし、転勤とかでこっちに来たりしてもそのうち出ていってしまう。大学でこっちに来ても出ていってしまう。一時期住んでるけど出ていってしまう、という人が多い気がして。特にセクシュアルマイノリティにとっては、ちょっと住みにくいというか、そもそもあまり仕事がないので東京のほうに行っちゃおうと。そうすると「よりみち」の参加者さんの中で、毎週のように来てくれた方でも県外に行っちゃったりするので、結構、入れ替わりがありますね。

都会を目指してしまうのは、色々理由はあるとは思いますが。「セクマイの住みづらさ」

というのも、住民の理解度というよりは、先ほども話したように、セクマイとしての自分ではいられる職場がそもそも、福島市にはないので。

だから参加者さんの中には、他地域から福島に引っ越してきた人も、逆に福島から引っ越してしまう人も、どちらも本当に大勢います。毎年毎年、常連さんが入れ替わっています。福島市に住んでいると「あ、また一人いなくなったな」「また新しい人来たな」と感じることは多いですね。

3. 成果と課題

◆活動の成果

「よりみち」の成果は、何でしょうね。何だかんだ、常連さんが来てくれているというところが、成果になってるんじゃないのかなって思うんですよね。行きやすい場所、ここだと自分らしくいられる場所だと思ってもらえているのかな、と。

直接的な生活支援などはやっていませんが、生活困窮とか、特別な支援が必要な場合は連携機関に繋ぐこともあります。不登校や学校に行っていない子も来ることはありますが、セクシュアリティの問題が不登校につながっているのかどうかは、母数が少なくて何とも言えません。不登校になった理由までは、そんなに聞いてないので。最近は若いスタッフも増えたので、中高生もより来やすくなるかなと考えています。

「よりみち」は相談に乗るというよりも、みんな自分らしく過ごしてほしいという場所なんです。ただ、何か喋りたそうな人、相談がありそうな人は、他の参加者さんとは離れた場所に呼んだりして、相談に乗ることもあります。

参加者さん同士が「よりみち」で連絡先を交換して、よりみち以外の場で会うことも禁止していません。特に年齢が近いと、友達になりやすいみたいです。

福島市はセクマイに限らず、「よりみち」のように若い子が集まれる居場所自体が、あまりないと思います。フリースクールみたいな所はありますけど。子ども食堂は各地に増えてきているので、先日、子ども食堂をやっている所にチラシを置かせてもらったりしました。このあいだ見に行ったら、チラシちょっとはけてましたね。

セクマイに限らず、居場所がないなと感じてる人はどんどんつながってほしいと思いますし、その意味でも色んな常連さんが来てくれているのは「よりみち」の成果かな、と思いますね。

◆スタッフと参加者

運営面では、スタッフを集めるのが大変ですね。スタッフは、連携団体に紹介してもらったりとか、あとは参加者さんの中で声を掛けてみたりとかして集めています。

スタッフは交流会の日に毎回2-3人入ってもらい、雰囲気作りや、参加者さん同士をつなげたりといった仕事をしてもらっています。事務仕事的なのは、ほとんど頼んでないです。報告書やブログを書いてもらうぐらいですね。

スタッフも引越や県外への就職などでいなくなってしまうことが多く、入れ替わりがあ

ります。この3月に2人いなくなって、夏にもまた1人いなくなるらしく。この間、3人入れたんですけど、うち1人は長期的に入れたい時期とかもあつたりと、やりくりが大変です。

スタッフがトラブルでやめたり、喧嘩したりってことはないですね。その点で「よりみち」は運営方針が大きくぶれることなく、3年間続けられています。

他のスタッフとか参加者さんのやりたいことも結構取り入れるようにしています。年に一度、毎年三月に「よりみち会議」ってあって、参加者さんとスタッフみんなで、その年の反省点と、次年度に何をやりたいかみたいなのを喋ったりとかして。それを基に、次の年度の企画を私とたかはし（本冊子にインタビュー掲載）で考えて、その企画を他のスタッフにも共有して、という流れです。「出張よりみち」を何回やるか、どこに行くか、なんて話もします。

この前の「よりみち会議」は5人くらい来てくれました。会議といっても、わりとみんな言いたいことを自由に話せる雰囲気ですね。そこで出た去年の反省点は、さっきも話した会津の「出張よりみち」の件ですね。対象をどうするか、事前にTwitterでアンケートをとった時に「誰でも」と「セクマイ」が多かったんです。それで、前半の時間帯は「セクマイ当事者・理解者限定」、後半の時間帯は「誰でもOK」として、違う場所でやりますと告知したんですが、それが駄目だったみたいで。Twitterの時点では14人くらいから反応があったんですが、当日は結局1人しか参加者さんが来なかった。セクマイ限定とすると、かえって当事者が参加しづらい。結局「誰でもOK」にしないと、会津では来づらいみたいです。

みんながなぜ来なかったのかというのは分からないんですけど、表向きは「誰でも」としておいたほうが、参加者は来やすいのかもしれないなという反省をして、今年度は「誰でもOK」にしようと考えています。

「よりみち会議」では参加者さんからも運営方針を募りますし、その点ではスタッフと参加者さんの間に明確な境界線があるわけではないですね。普段の「よりみち」でも、壁に貼ってある「やりたいことリスト」に参加者さんがやりたいことを自由に書いてもらって、賛同する人が3人以上いたらやるかもよ、ということをしています。「やりたいことリスト」から実現したイベントもたくさんあります。

◆行政、マスメディアとの関わり

行政との関わり方が私はよく分からないので、本当は関わったほうがいいとは思ってるんですけど、どうしようかなってところです。行政側から、こういうことをしてくれませんかという依頼もほとんどないですね。男女共生センターとはちょっと繋がっていて、こんなイベントありますよっていう連絡は来ますけど。

行政と繋がったほうが、福島市のセクシュアルマイノリティの生きづらさがちょっと変わるんじゃないかなという期待みたいなものはあります。ただ難しいのは、スタッフが私も含めて全員、顔出しをしてないんですよ。おととい、初めてメディアの取材（『読売新聞』福島県版）が入ったんですけど、その時もスタッフの顔出しはなしで。写真もぼやけた感じで撮ってもらいました。取材を受けた大きな理由というのは特になくて、新聞とかそういう

取材を今まで受けたことがなかったので、「受けたほうがいいかな、そろそろ」みたいな感じでしたね。

取材が入ることは事前の Twitter なんかも告知していて、「もうこれは誰も参加者さん来ないかも」とも思ってたのですが、3 人ぐらい来てくれました。みなさん、取材にも答えました。ちょっと喋りづらそうにはしてましたけど。

◆「顔出し」の難しさ

首都圏とかだと顔出しして活動してる人も多いですけど、それは人口が多いからできることですね。福島市でそれをやると……。自分が顔出しする分には、私も別に構わないとは思ってるんです。ただ私と一緒に歩いてた人が「あの人と歩いてたけど、あなたもひょっとして当事者なんじゃないの？」って言われます、多分こっちだと。

「周りに迷惑がかかるから、顔出しの活動はしない」という感覚はありますね。確かにいわきで顔出しして活動したら、家族に迷惑掛かるなと思いますし。いわきぐらいだとそんなにはないかもしれませんが、母の実家のあたりとか、東北でももうちょっと田舎のほうに行ったら、他の人から何か嫌なことと言われるんじゃないかとかは思います。

嫌なこと言われそうだって思うのには理由があって、母の実家の方に行くと、家族とか親戚が集まった時に、そのうちの家長が座る場所と長男が座る場所が決まってるんです。男性は、ご飯の用意は全くせずにお酒を飲み始め、女性だけ家事をするみたいなところなので、その中で同性愛とかそんなことを話したら、もう色々言われるだろうなと思ってしまいますね。

◆これから取り組みたいこと

やっぱり結局、「よりみち」の中だけが居心地良くても駄目なので、地域をどうにかしたいといけないなと思ってるんです。そういうのも実は考えてたから、新聞の取材に乗ったのかな。よく分かんないんですけど（笑）。ちょっと社会的な発信とか、地域に対する働き掛けみたいなことについて、色んな所と関わったりとかもしていこうかなと思ってます。

さっきのハローワークの話みたいにそもそも行政機関の人が理解していないとか、私自身や「よりみち」参加者さんが感じている、生きづらさがちょっとでも改善できればなあ、と。他にも例えば私が大学にいたころ、教育実習に行く友人が「女性はスカートじゃないと駄目だから」「基本、スカートだからね」って言われたりしたとか。先日、幼稚園の近くを歩いてたら実習生がいたんですけど、20 人ぐらい女の人が出て、パンツスーツが 2 人ぐらいだったかな。それもちょっと「あれ？」って思いました。服装に限らず、男性らしさ、女性らしさみたいところを押し付けられなければいいなと思いますね。

大学のサークルで、女性を好きなことを最初は「ネタ」として扱われていたことを話しましたが、男性同士のキスを「ネタ」扱いしたりすることもあるサークルだったんですよね。ダンスのショーの一環として、「ネタ」として取られる時間があるんですが、そのショーのラストで男性同士でキスして終わるみたいな。それで笑いを取る。

しかもそのサークル、サークル長は男性じゃないと駄目だったんです。そのサークルの中

だけの話なのかなと思って他の人に聞いたら「それあるよ」って言われて。そういうのは結構あるみたいです。大学でそうなので、社会見てもわりと、その流れを引きずってるんじゃないのかなと思ったりすることもあります。